



日本ヨハン・シュトラウス協会創立 45 周年

Johann Strauss Festival

ヨハン・シュトラウス フェスティバル

喜びのご挨拶、2020年日本ヨハン・シュトラウス協会は45周年を迎えました。明るい話題に心が弾んだ今年序盤、現在の状況を誰が予想したでしょう。それでも光陰矢の如し、ふたたび希望の灯火が少しずつ輝き始めました。全ての人の人生に愛と喜びに満ちた日が一日も早く訪れますよう。このフェスティバルは、ニューイヤークンサートで有名な音楽家ヨハン・シュトラウスを中心にした講演、歌、弦楽アンサンブル、歴史舞踏などあれかこれか！と、迷うほど多彩なイベントです。1プログラムから観覧可能、プログラムすべて制覇するあなたはシュトラウスマニア、これからもどうぞごひいきに。人生はただ一度だけ、心はもろびと手を取り、新しい生活を始めましょう、勇敢に進め！

2020年7月24日(金・祝) 12:00 開場 12:30pm 開演

内幸町ホール 入退場自由 入場無料

都営三田線「内幸町駅」下車 A-5 出口 徒歩 5 分 広場より階段を下りる

メトロ銀座線「新橋駅」7 番出口に向かい内幸町地下通路より徒歩 5 分

JR「新橋駅」日比谷口より徒歩 5 分 広場より階段を下りる

お車の専用駐車場はありません、会場周辺の時間貸し有料駐車場をご利用ください



出演

秋谷 寿一(日本ヨハン・シュトラウス協会会長)

柴山 三明(訳詞家 舞踏音楽研究家)

古見 道夫(歌劇・舞踏音楽収集家)

中村 哲郎(NHK ニューイヤークンサート解説出演者)

日本 JS 協会 管弦楽団

日本 JS 協会 コーラス

稲見 里恵(二期会会員・コーラス指導者)

日本 JS 協会 歴史舞踏クラブ



後援 **オーストリア大使館**

オーストリア文化フォーラム

○レントラーに寄せて 柴山 三明(Op.362)

私がレントラー舞曲に興味を持ったのは、一寸したことからであった。吉祥寺の中古LP・CD店で「1900年時のウィーンのファンタジーと夢」という表題の2枚組LPを見つけた。1枚はツィーラーの作品集、もう1枚はランナー・シュトラウス父、ヨーゼフのもの。演奏はウィーン・リングアンサンブル。ウィーン版である。驚いたことにこれがたった千円。直ちに購入した。80年代の録音で、個々の演奏者の技術、表現の洗練さ、アンサンブル・録音まで、見事な名盤。聞き惚れて何度か聞いているうちに、一つの疑問が浮かんできた。レントラーはこんな洗練され、完成された音楽だったのであろうか。

そこで、手持ちの音源で、レントラーと名のつく曲100曲近くを端から聞くことにした。レントラーについては、私には貴重な経験がある。1999年に開催されたウィーンシュトラウス研究所主催のシンポジウムで、オーストリア民衆音楽研究の第一人者ワルター・ドイッチェ教授による、レントラーをテーマとした講義を受けたことである。ドイツ語能力不足で十分理解とはいかなかったが、ピアノで自ら演奏しつつ、時代や、地域・作曲家別の違いを弾き分けての講義は強く印象に残っている。その貴重な記録が、研究所の機関誌「ディ・フレデルマウス」2003年1月号に「レントラー・スタイルのワルツ」という表題で掲載されていたのを探し出して読み返すことにした。このような経過を経て、多少わかってきたことを、今回シュトラウス協会45周年にあたり、お話する機会を頂いたのは大変ありがたく思っている。

内容としては、オーストリアの農民ダンスのレントラーがウィーンに入り都市のダンス音楽となっていく過程を、モーツァルト・ベートーヴェン・シューベルト・ランナー・シュトラウスファミリー・ツィーラーなどの音楽を交えてお話ししたい。

また、この過程で、知ったこれらの音楽家たちの知られていなかった関係なども触れたと思っている。

当日は、レントラーの模範ダンスを秋谷会長と町田さんに、また、シューベルトのレントラーの演奏を、毎年ウィーンで開催される音楽セミナーの講師として活躍されているピアニスト 平沢匡朗さんをお願いしている。ご期待ください。

○日本ヨハン・シュトラウス協会管弦楽団

「日本ヨハン・シュトラウス協会管弦楽団」はヨハン・シュトラウスファミリーの曲を中心にウィーン音楽の演奏を楽しんでいるアマチュアのオーケストラです。

年一回の演奏会は、来年43回を迎えます。

2016年にはウィーン楽友協会にてウィーン公演を行い、好評を博しました。7月24日は、団員による弦楽器のアンサンブルをお楽しみください。田上光代理事、松田会員等8名が出演予定です。

【演奏予定曲】

「春の声」

「ニューピチカートポルカ」

「ウィーンの森の物語」

「皇帝円舞曲」

○歴史舞踏クラブ ダンスサロン

「日本における明治・鹿鳴館時代の西洋舞踏再現」
1887年、1894年の鹿鳴館夜会のダンスプログラムには、ダンスサロンで日頃踊られている舞踏が多数ありました。当時のダンス事情の考察と、シュトラウス音楽の関わり、舞踏再現披露を行う予定です。

【舞踏披露予定】

対舞 ワルツ・ポルカ・マズルカ

方舞 カレドニアン

ランシェー

○ヨハン・シュトラウスとオペレッタ

中村 哲郎(op.432)

ヨハン・シュトラウスがオペレッタ公演に至るまで、どのようなことに留意していたか、台本作家との関係、配役の選定、各ナンバーの作曲の経緯などについてお話する予定です。

○オペラ、オペレッタ等の区分について

古見 道夫(op.409)

タンツィグナーレでオペレッタの起源の報告をしましたが、会員の方からオペラ、オペレッタ、ミュージカル、ジंकシュピール、楽劇などはどのように違うのかとの宿題を頂きました。例示をしながら区分ができるものについては、違いについて考えてみます。

またヨハン・シュトラウスのオペラ、オペレッタについても述べます。

○コーラスグループ

コーラスグループは生活の余暇としてヨハン・シュトラウスに代表されるウィーン音楽を歌って楽しみたい人たちの集まりです。二期会会員の稲見里恵先生の指導の下で月一回の練習を大切にしております。未熟ではありますが日ごろの成果をお聴きいただければ幸いです。

予定曲目ウィーンの森の物語

ウィーン気質

ウィーンわが夢の街

○稲見里恵先生によるミニリサイタル

コーラスグループをご指導なさる稲見先生による華やかで本格的な歌唱舞台です。どうぞお楽しみに。

出演順

- 1、会長あいさつ「協会の歴史」
- 2、コーラスグループ ウィーン音楽歌唱
- 3、柴山氏講演「レントラー」
- 4、稲見里恵先生ミニリサイタル
- 5、古見氏講演「オペラ・オペレッタ区分」
- 6、協会管弦楽団 アンサンブル
- 7、中村氏講演「シュトラウスとオペレッタ」
- 8、ダンスサロン 鹿鳴館ダンス再現

最後は皆さんで記念撮影を壇上で予定しています。

※5時30分終了予定、都合によりプログラム等変更になる場合もございます。予めご了承ください。